



「音楽の力」でつながろう！「“何か”はきっとできる」 世界の子どもたちの豊かないのちを願って、歌いませんか？

2004年、当時のWVJで働いていた矢島志郎スタッフ（現在はキリスト者学生会（KGK）副総主事）が、ワールド・ビジョン創設者のボブ・ピアスの想い「“何か”はきっとできる」をメロディーにのせ、歌にしました。団体の理念やミッション、願いが込められているこの曲は、想いがあふれて涙がこぼれるスタッフもいるほど共感を呼び続け、ずっと歌い継がれてきました。「WVJを通して支援してくださるすべての方、そして、支援地域の子どもたちと一緒に歌いたい！」。そんな願いを込めて、設立30周年を機に広くみなさまにご紹介するはこびとなりました。世界が「音楽の力」でつながれたらなんて素敵だろう、と夢を膨らませながら、支援地域の子どもたちに英語版を紹介し始めています！皆さんも、一緒に歌いませんか？

“何か”はきっとできる

作詞・作曲：ワールド・ビジョン・ジャパン／矢島志郎

Intro. G Gsus4 C/G G C/G
♪ = 78

A G C/G G F D7
一の ゆう 二 か で 一 し す か し 一 の き え て 一 ゆ く 一 は か な
い の い の 一 ち に 一 と も せ 一 る ひ か り が 一 あ 有 一 せ かい の
い の い の 一 ち が 一 せ かい 一 に か が や き 一 だ す

B G F#m7 B Em7 Dm7 G C G/B Am7 Bm7 C Dsus4
一 こ ど も た 一 ち に 一 き ば う と え が お が あ ふ れ る よ う に 一 わ た シ に
G F#m7 B Em7 Em7/D C Dsus4
一 も な に か で 一 き 一 ち い さ な わ た シ に も

Ending
Inter 1. G Gsus4 G Dsus4 | 2. C G/B Am7 G
す こ し 一

©World Vision Japan



「“何か”はきっとできる」
ページはこちらを
ご用意しています!!

「“何か”はきっとできる」
楽譜
「“何か”はきっとできる」英語版 歌詞と楽譜
音源（カラオケバージョン）
子どもたちが歌っている様子（動画）



チャイルド・スポンサー・シップ
募金のお申込みはこちら

電話でのお申込み
WEBからのお申込み

0120-465-009

ワールド・ビジョン

World Vision

この子を救う。未来を救う。

World Vision News No.190 2018年3月発行 ワールド・ビジョンニュース

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン

〒164-0012 東京都中野区本町1-32-2ハーモニータワー3F TEL 03-5334-5351(平日9:30~17:00) FAX 03-5334-5359

dservice@worldvision.or.jp www.worldvision.jp

World Vision News No.190

World Vision

この子を救う。未来を救う。

No.190

World Vision News

2018年3月 ワールド・ビジョンニュース



ありがとう！30th Anniversary

75カ国の子どもたちに支援を届けてきました

これまでの歩みを支えてくださった皆さまへの感謝とともに、30年間の支援活動で可能となった成果を、ほんの一部ですがご紹介します。

40カ国で行われてきたチャイルド・スポンサーシップによる支援については、その変遷と成果をごこちらのページにまとめました。ぜひご覧ください！
チャイルド・スポンサー 歩み



タンザニア

チャイルド・スポンサーシップの長期支援、成果を実証

1996～2015年の20年間にわたるンゲレンゲレ地域開発プログラム(ADP)では教育環境が大きく改善。小学校を卒業した成人の割合は45.6%（1999年）から79.8%（2015年）へと向上し、息の長い粘り強い支援が、子どもたちの成長に対する地域住民の前向きな取組を促し、変革を生み出すことを証明しました。



支援開始当初の地域の学校の様子（左）と現在の様子（右）

元チャイルドに聞いてみました！
～支援が活かされています！～

ソフィアさん（インタビュー実施時22歳。
写真左、黒いシャツの女性）
プロフィール：支援により7年間の初等教育修了後、縫製の職業訓練を受け、2010年から仕立て屋を営業。6人兄弟の長女。

「1番嬉しかった支援は、1年間の縫製の職業訓練です。「子どもの権利」を学んだことも強く印象に残っていて、両方とも、今的生活に活かされています」



バングラデシュ

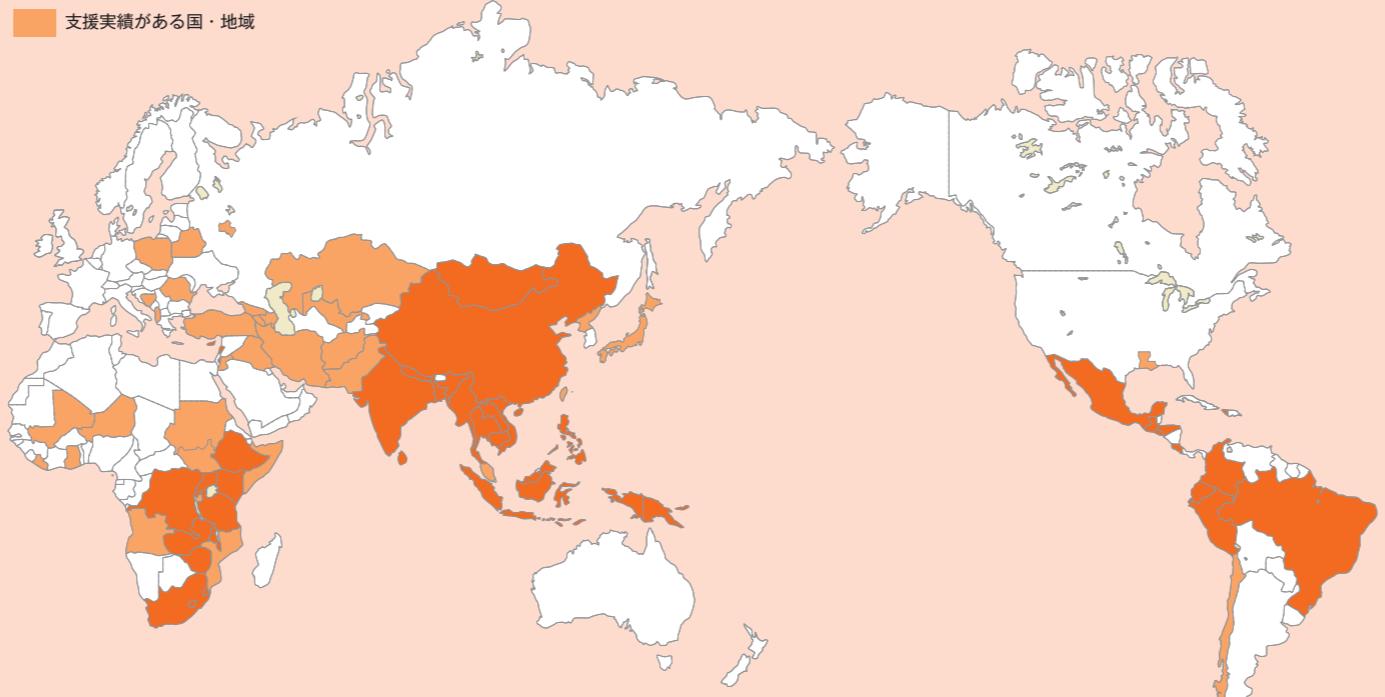
今も使われている井戸！

WVJが最初に支援を届けた国はバングラデシュでした。1988年の大洪水緊急支援、チャイルド・スポンサーシップの開始に加え、1989年には「愛の泉計画」をスタートし、2,358基の井戸の支援を実現。当時設置された井戸は今も使われています。

1990年に支援し、現在も使われている井戸▶



チャイルド・スポンサーシップによる支援実績がある国
支援実績がある国・地域



数字でみる WVJ30年の成長

	1988年度	2017年度
スタッフ数	4人	84人
支援国数	7カ国	30カ国
日本からのスポンサーがいるチャイルド数	438人	56,812人
収入金額	9,899万円	47億5,559万円

カンボジア

緊急から自立支援まで

内戦から復興、開発の道を歩んでいるカンボジアの歴史とともに、WVJも歩んできました。1993年、国内避難民支援や地雷対策活動を本格化。その後、復興のニーズに応える保健・教育支援などを行い、1996年からチャイルド・スポンサーシップによる支援を開始しました。昨年11月には、WVカンボジアのレイ・シネットスタッフが来日して支援の成果を報告。内戦の影響が残る農村部で成長した彼自身の体験も共有され、「緊急から自立支援まで」を体現しているWVのカンボジア支援の歴史を感じさせました。（p.14をご覧ください）



内戦終了後の1993年、国連監視下の総選挙後カンボジア入りした片山スタッフ（現常務執行役員）



内戦後、復興とともに成長したシネットスタッフと、現在のチャイルド・スポンサーシップによる支援地域の子どもたち

30周年に寄せて - 感謝とともにさらなる挑戦へ -

戦闘後、豊かになった日本から途上国の子どもたちのためにできることがあるはず、という思いから誕生したワールド・ビジョン・ジャパンは、2017年10月、設立30周年を迎えました。これまでの歩みを支えてくださったお一人おひとりに心から感謝申し上げます。この30年で、世界の子どもたちを取り巻く環境が改善した部分もあります。しかし今、難民の数は戦後最悪の水準に達し、その半数以上は子どもです。子どもへの暴力も深刻です。WVJは、もっとも弱い立場にある子どもたちにより多くの支援を届けるため、これまでの経験と学びを活かしつつ、更なる挑戦への決意を新たにして、歩んでまいります。これからも、みなさまのご理解とご支援が何にも代えて、私たちの原動力になります。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。



ワールド・ビジョン・ジャパン
事務局長
木内 真理子

日本

世界での経験が活かされた緊急支援

日本での大地震に際し、世界各地での支援経験を活かして緊急復興支援を実施してきました。特に、東日本大震災の時には、日本の皆さまはもちろん、世界各国のワールド・ビジョンからも応援が届き、3年間で約30万人に支援を届けました。



大地震で突然「日常」を失った子どもの心のケアを目的に運営されたチャイルド・フレンドリー・スペース（宮城県登米市）

タイ

グローバル経済への挑戦とともに

スリン地域開発プログラム(ADP)（1997～2007年）は、アジア通貨危機を背景に、グローバル経済に翻弄されない住民組織力の強化を目指しました。支援終了から5年後に行った調査では、60.1%の地域住民が支援前と比べ生活状況が良くなっていると回答。「良くなった」と感じる理由のトップ（37.3%）は地域が互いに助け合うシステムが組織強化により整ったことでした。支援終了後にも生計向上・貯蓄グループの多くの活動を継続し、農協組合員も増加（5年間で761人→830人）していることから、住民組織の強化という支援の成果が実り、発展を遂げていることが確認されています。



支援終了後も発展を遂げている農協のメンバーと今西スタッフ（右から2番目）

ワールド・ビジョン・ジャパン 30年の歴史



世界での活動

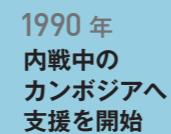
日本での活動

1988年
チャイルド・スポンサー・シップによる支援をバングラデシュで開始



新川元スタッフと
バングラデシュの子どもたち

1990年
初の駐在員、新川代利子（現理事）をバングラデシュへ派遣



新川元スタッフと
バングラデシュの子どもたち

1992年
ブランド・ファミン（愛の飢餓体験募金）でソマリア難民支援

1991年
内戦中のカンボジアへ支援を開始

1992年
郵政省国際ボランティア貯金初交付（フィリピン / ピナツボ噴火被災者支援）

1994年
ルワンダ難民支援

1995年
WVJがチャイルド・スポンサー・シップで支援する支援地域が初めて終了（バングラデシュ）

1996年
外務省草の根無償資金協力が初交付（カンボジア小学校総合整備事業）



エルサルバドルのヌエバ地域開発プログラム。チャイルド・スポンサーにクリスマス・カードを書く子どもたち

1998年
国連機関と初の協働でボスニア紛争による難民帰還民支援

1999年
ヤマザキナビスコ（株）より、リット・クラッカー1,300カートン提供、コソボへ緊急食糧支援



タンザニアの難民キャンプにて配布されたTシャツを着た男の子

2001年
インド・グジャラート大震災
緊急支援

2002年
アフガニスタン緊急援助

1987

1988

1989

1990

1991

1992

1993

1994

1995

1996

1997

1998

1999

2000

2001

2002

1987年
10月19日
ワールド・ビジョン・ジャパン開設式



「愛の泉」チャリティコンサートで毎年設置されるラブ・ローフ募金箱

1988年
理事・新総裁就任式。（理事長に羽鳥明ほか理事7名、新総裁に峯野龍弘就任）

1988年
ラブ・ローフ募金開始（今まで継続）

1990年
「愛の泉」チャリティ・コンサート開催開始

1990年
黒柳朝さんが親善大使に就任

1991年
山崎製パン（株）より第1回山崎ラブ・ローフ募金として10,865,777円の贈呈を受ける（以後毎年）

1993年
ラブ・ローフ募金の新聞広告「このパンは、子どもたちを救う。」が第34回「消費者のためになった広告コンクール」銅賞に入賞

1994年
ジュディ・オングさんが親善大使に就任

1995年
阪神・淡路大震災救援活動（1996年度末まで）

1995年7月～9月
'95ファミン30開催



1996年
黒柳朝さん講演会開催

ファミン30 沖縄大会の様子

1999年
特定非営利活動法人として認証、登記完了



第5回「愛の泉」チャリティコンサートによるラオス復興支援（水瓶150個配布の様子）

2000年
片山信彦が事務局長に就任

2001年
ワールド・ビジョン版「子どもの権利条約」作成

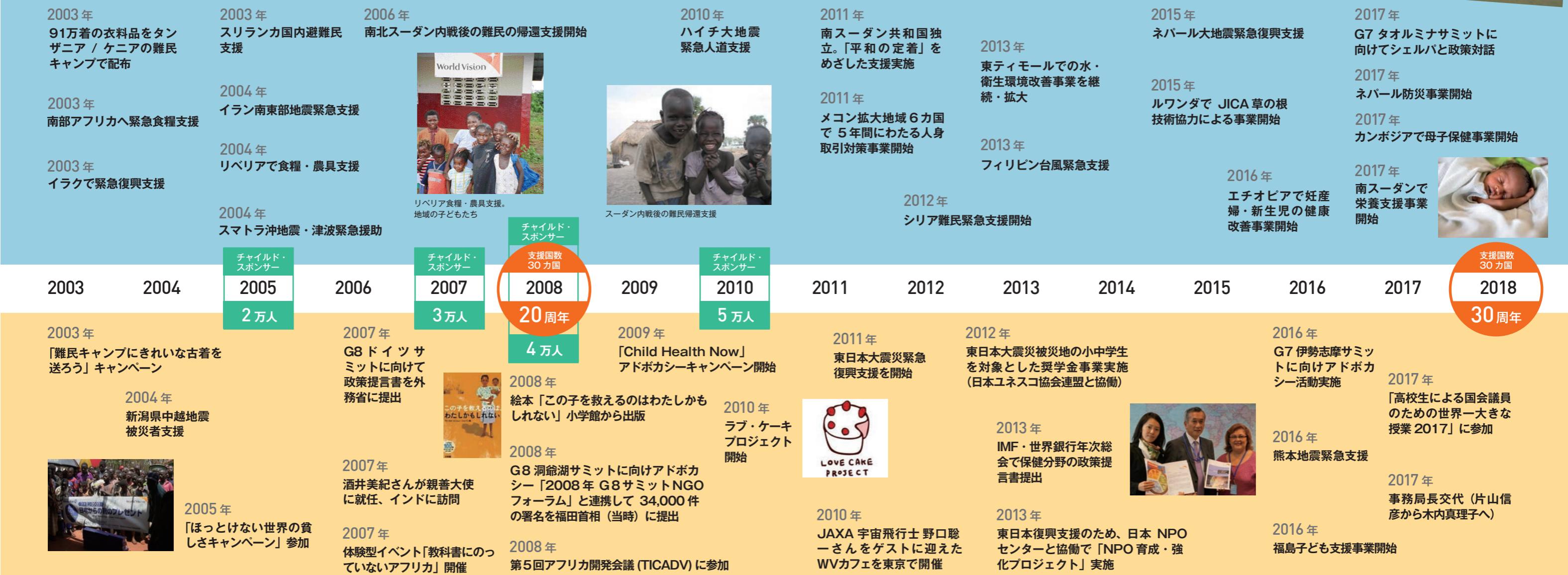
2002年
国税庁より認定NPO法人として認定

“何もかも”はできなくとも“何か”はきっとできる



私たちのビジョンは、すべての子どもに豊かないのちを
私たちの祈りは、すべての人の心にこのビジョンを実現する意志を

ネパール大地震発生直後に現地入りし、
物資支援を実施



様々な業界でご活躍されているチャイルド・スポンサーに聞きました！ どんな想いで支援しているのですか？

親善大使



ジュディ・オングさん
歌手・女優・木版画家

私が身体を壊した時、たくさんの方の「想い」によって元気を取り戻しました。「想い」は世界をつないでくれます。WVJで支援を始めたのも、そんな中で「何かできないか」と思っていた頃でした。人間というのは、どこまであれば幸せなのか、と思います。「これがあれば幸せ」って、ありますよね。それ以上の幸せを、私は「幸せのボーナス」と呼んでいます。私たちにとっての一部が、支援となり世界の子どもたちの幸せに変わります。これからも、子どもたちの可能性を開くために、とも歩んでいきたいと思います。



気仙沼の避難所で衣料品を手渡す
ジュディさん（2011年）



酒井 美紀さん
女優

2007年にインド、2017年はフィリピンの支援地を訪問しました。たくさんの笑顔の子どもたちが寄ってきてくれたり、「スポンサーさんからこれもらったんだよ！」と話してくれる子どももいて、日本のみなさんが支援してくださっていることが、確実につながっている、と実感し、非常に嬉しく思いました。このような活動は、行動を起こせばすぐに変わるものではなく、根気のいる、時間のかかるこですが、まだまだ必要があると実感しています。これからも微力ですが、がんばりたいと思います。



フィリピンのチャイルド、
サンドリアンくんと（2017年）



星野 富弘さん
詩人・画家

子どもたちからの手紙の中には、必ず兄弟や家族のことが書いてあります。兄弟や家族のことを思うのは「いいなあ～」だと思います。そして、将来については、「先生になりたい」「医者になりたい」と大きな希望を持っています。とにかく、夢を捨てずに、そこに向かってほしい。そのためにも、私たち大人がしっかりとと考えを持つていなければいけないと思います。私たちが希望を持って生きたいと思います。そして、子どもたちが夢を実現できるように、少しだけ手助けできるような支援をしていければと思います。



宮川 彰良さん
作曲家

命の夢を観たことがあります。その命は僕の手のひらの上でどんどん小さくなり、しまいには、指と指の三角のすき間から粉のように落ちて消えてしまう夢でした。こんなに自由に世界が交流できる時代なのに…相変わらず僕たち人間は愚かなままなんでしょうか…いや、そんなはずはない！ぼくはワールド・ビジョンの活動を心から応援しています。

企業



DADWAY®



アース製薬株式会社

玉の肌石鹼株式会社

団体設立当初から、世界の子どもたちのための支援を続けてきました。石鹼を作る会社として、WVJに関わる皆さんに「何か」できればと、30周年記念石鹼の寄贈を行いました。これからも、より多くの子どもたちへ希望が届けられるよう、支援を続けていきます。

株式会社ダッドウェイ

育児用品を企画・輸入・販売する弊社も創業から25年、2人のチャイルド支援を始めて10年がたちました。私たちは「愚直に丁寧に」という言葉を大切にしています。子どもたちのために、継続と温かいつながりの輪が世界中に広がることを祈り、私たちも微力ながら取り組んでまいります。

ヨシリツ株式会社

当社は、LaQという教育玩具のメーカーで、日本を中心に世界28カ国で商品を販売しています。輸出先の主な地域は、裕福な先進国が中心ですので、色々な環境の子どもたちと繋がりを持ちたいという想いから、チャイルド・スポンサーシップを通して支援をしています。世界の子どもたちが、等しく豊かに、健全に生活できるようになることを祈念して、お祝いのメッセージをさせていただきます。

アース製薬株式会社

当社が事業展開をしている東南アジアの子どもたちへチャイルド・スポンサー・シップを通じて支援しています。「生命と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。」の経営理念のもと、一人でも多くの子どもたちに幸せを届けられるよう、今後も支援を継続してまいります。

各種団体（教育機関・教会）



**日本基督教団
鴨島兄弟教会**

チャイルド・スポンサーシップに参加したのは約23年前。世界には厳しい環境での暮らしを強いられている子どもが大勢いることを知り、その子どもたちに思いを寄せ、少しでもお役にたてたら、との想いからでした。その後、教会のバザーの収益金でチャイルドをもう1人支援するようになりました。子どもたちや地域の必要なために献金が有効に用いられていることが、手紙や写真を通してよく分かり、とても嬉しく、感謝しています。



**日本同盟基督教団
衣笠中央キリスト教会**

30年以上前、当教会にチャイルド・スポンサーシップの案内が届き、婦人会で希望者を募り、1人300円で1人の子どものチャイルド・スポンサーになりました。その後、希望者が増加し、支える子どもの数も増え、今では3人の子どものチャイルド・スポンサーとして支援しています。捧げる教会の理念のもと、これまでの活動を祝してくださった神様に感謝です。



**学校法人大阪信愛女学院
大阪信愛女学院小学校**

貧困や紛争などによって恵まれない環境にある子ども達への思いやりの心を、児童が目に見える形で表現できる活動としてチャイルド・スポンサーを始め、15歳以上が経ちます。豊かな生活を送れる喜びに感謝して、お手伝いや我慢に励み、一人でも多くの子ども達の「えがお」のために支援を続けて参ります。



**学校法人搜真学院
搜真小学校**

搜真小学校では、学年毎に一人のチャイルドを児童の献金によってサポートしています。6年生が卒業すると新1年生が支援を引き継ぎます。誕生日やクリスマスにはシール等を持ち寄ってカードを作って届けたり、成長報告や手紙を廊下に掲示して、「もう一人のクラスメート」の成長をともに喜んでいます。



**学校法人梅光学院
梅光学院中学校・高等学校**

本校ではルカによる福音書「善いサマリヤ人」の話にならい、月に1度の「サマリヤデー」で募金活動を行なっています。「隣人を自分のように愛する」ことを学び、実践することが目的です。4名のチャイルドからのお手紙、遠く離れた隣人としていつも楽しく拝読しています。



**学校法人横浜学院
横浜女学院中学校・高等学校**

私たちは、発展途上国の子どもたちに健やかに成長できる環境や学びの機会を提供してくださる貴団体の活動に賛同し、支援に参加させていただいております。定期的な文通は、チャイルドの様子を知ることができ、毎回とても楽しみにしています。今後もチャイルドの成長のさやかな支えとなるよう活動を続けていきます。



松本 莉緒さん
女優



木暮 太一さん
作家・経済コメンテーター

同じ地球、同じ時間に生きてる人として、「自分たちだけ幸せであればいい」という考えには少し悲しさを感じます。チャイルド・スポンサーシップは、物やお金で渡せばいいということではなく、目に見えない繋がり>という想を感じ合うことが出来ます。実際にチャイルドを訪問し、与える事を喜びに変えられた時に、自分自身の心の成長を感じました。そしてそれは今人生に生きていると思います。

世界を見渡すと、ぼくらが当たり前に過ごしてきた幼少期の環境が、「当たり前」ではないことに気づかれます。知らない間に自分の世界と視野が狭くなっていることを、今回改めて感じました。ぼくらが何気なく使っているちょっとしたお金で、子どもとその家族を支えることができる。子どもたちが学校に通い、現状を変えることができる。人生を変えることだってできる。これって、すごいことだと思うんです。いま、定期的に支援している子たちと文通をしています。本当に毎回楽しい。もしかしたら、元気をもらっているのは、ぼくら大人の方かもしれませんね。

全国30人のチャイルド・スポンサーに聞きました！

どんな想いで支援しているのですか？

設立から30年、私たちは多くのチャイルド・スポンサー、ドナーの皆さまに支えられ、今日に至るまで活動を続けることができました。毎月のご支援は言うまでもなく、事務所・在宅でボランティアとしての働き、電話・メール・手紙等を通じたスタッフへの励まし、差し入れ等の優しいお心遣い、WVカフェやツアーやイベント等での交流、SNSでの投稿やコメント・いいね・シェア、様々なシーンでの皆さまとのつながりが、世界の子どもたちの笑顔と希望につながっています。これまでの歩みをえてくださいましたすべての方に、心からの感謝と敬意を表します。全国のチャイルド・スポンサー、30名の皆さまから声をお寄せいただきましたので、ご紹介します!!

お名前・ニックネーム / お住まいの都道府県 / ご支援年数 右記のいずれか1つの項目についてコメント Ⓐ チャイルド・スポンサーとしての喜び、嬉しかったこと Ⓑ ワールド・ビジョンの好きなどころ Ⓒ チャイルドに願うこと



青野 勝子さん
愛媛県 23年



Akemi さん
佐賀県 24年



石黒 芳樹さん
神奈川県 9年



いっきさん
京都府 10年



小倉 越子さん
埼玉県 22年



ひこたんママさん
京都府 15年



ひろやさん
東京都 2年



深作 利奈さん
北海道 7年



藤生 竹志さん
静岡県 7年



藤尾 喜代子さん
東京都 16年

Ⓐ 最初はタイの女の子でした。会いに行った時、初め緊張していた彼女が別れ際にオカアサンと呼んで手を握ってくれました。嬉しくて肩を抱きながら「成長を見守り続けたい」と思ったのが忘れられない嬉しい思い出です。

Ⓑ 教育はもちろん自立支援に力をいれているWVJに共感し支援を始めました。現地の状況を目の当たりにして私の選択は間違っていないと確信しました。「何もかも“はできない”とも、誰かに“何か”“はできる”この言葉のとおり今後も微力ながら協力したいと思っています。

Ⓐ 子どもたちへの思いを共有できる、たくさんの仲間と出会えたことです。WVJカフェ、ボランティア感謝会、オフ会など、直接お会いしてお話しするのがとてもうれしいです。

Ⓐ 最初に支援したチャイルドは、モンゴルのダムティン君。彼に会った時の感動は今も心に残っています。チャイルドとの交流を通じ、いい感動をもらい、私自身も成長しているような気がします。
Ⓑ 同じ志を持つ仲間ができることです。地域で開かれるカフェやセミナー等では、世代を超えた多様な人達との出会いがあります。その場を超えた交流が続き、仲間を通じてさらに世界が広がっていきます。

Ⓐ 社会人になった時、自分の生活と世界の貧困地域との生活の差に何かできないかと思い、チャイルド・スポンサーになりました。みんな同じ人間、同じ生活の権利がある、そのためにできることをする、これがモットーです。

Ⓐ チャイルドの絵が、手紙が来るたびに上達していました。自分の夢について手紙に書かれていたとき、ああ、成長しているんだなあという実感を持つことができ、そのためにできることを喜びです。

Ⓐ チャイルドからのお手紙が何よりの喜びです！私がたくさん元気をいただいているのではなくでしょうか。遠く離れたチャイルドとお互いを想い合い、チャイルドと共に私も成長できる素晴らしい経験をしています。

Ⓐ 一番嬉しいのはチャイルドからの手紙や報告でチャイルドの成長を知ることです。2007年にフィリピンで最初のチャイルドに会ったこと、2009年にタンザニアで2人目のチャイルドに会ったことは良い思い出です。



葛西 真由美さん
千葉県 7年



和与さん
大阪府 7年



上戸さん
千葉県 6年



倉本 岳さん
神奈川県 3年



須賀 良子さん
東京都 15年



二見 美幸さん
神奈川県 22年



理子さん
大分県 9年



マッキーさん
東京都 2年



松本さん
新潟県 2年



Mid.Tak.さん
東京都 23年

Ⓒ 支援地ツアーでチャイルドに会えてキャッチボールをした時、細い体からは想像出来ない力強さに安心しました。これからも元気でたくましく育ち、将来は日本や外国に興味を持ってくれると嬉しいです。

Ⓑ チャイルドとの交流が円滑になるよう、小さな疑問でも、親身に聞いて答えてくれるので、安心して何でも聞けます。また、定期的に活動報告があり、寄付金が具体的に役立っていることが実感出来る点も気に入っています。

Ⓐ チャイルド・スポンサーになって世界を知り、自分が恵まれた環境で生かされてきた事に喜びを感じました。教育を受けられるのは当たり前でない事、支援がチャイルドの人間形成につながる大切な活動だと実感しています！

Ⓐ マラソンチームの活動の参加費の一部を用いチャイルドの支援をしています。趣味のマラソンをすることが、自分だけでなくチャイルドのためにもなることにチームのメンバー一同とても嬉しく思っています！
Ⓐ エクアドルのファビオ君。3800mの高地に住んでいます。生まれつきの病気があり、毎週3時間バスに乗り病院へ！学校にも通い妹想いです。支援の終わった今、素敵なお会いと沢山のお手紙に感謝しています。

Ⓐ スワジランドでシハイニ・シビウェちゃんに会えたことに感激し、嬉しいです。成長の手紙と写真、異文化交流。気遣い溢れる暖かいスタッフや素敵な楽しいチャイルド・スポンサーとの出会いにも感謝！

Ⓐ スリランカの森を背景に語りかけてくれるチャイルドからのビデオレターが届いたことです。南の島らしい小鳥のさえずりも聞こえていました。遠く離れたスリランカとの距離が一気に縮まった気がしました。

Ⓐ 全てのチャイルドたちの笑顔や力強く生きている姿に、心打たれ勇気付けられました。手紙や支援ツアーというかけがいのない体験もでき、チャイルドたちに会えた時の喜びは忘れられません。感動ありがとうございます！

Ⓐ 夫婦でタンザニアの“我が家”に会いに行きました。多くの人に支えられ素直に育っている彼を見てから嬉しいなり、一層の感激と喜びを与えてくれます。毎日写真を見て彼らの将来に思いを馳せるのも大きな喜びです。



つくば・駿ちゃんさん
茨城県 12年



TOMO さん
埼玉県 9年



中島 聖子さん
東京都 10年



名嘉真 愛さん
沖縄県 10年



濱館 直史さん
東京都 6年



宮崎 宏さん
岩手県 3年



守山 菜穂子さん
東京都 3年



山口 さん
埼玉県 6年



理江さん
長崎県 7年



若尾 守康さん
岐阜県 10年

Ⓒ 定年後に始めたスポンサー活動、最初のチャイルドはケニアの5歳のセレトちゃん。以来12年間、パワーを有難う。ケニアで会えたのが何よりも思い出。WVJの卒業後はケニアの大地で、優しく逞しく生き抜いてください。

Ⓒ 子どものいない私にとって、特定のチャイルドと繋がることは魅力的でした。子どもたちの笑顔を守り希望を持てさせて嬉しいという思いです。実際に会えた喜び、スタッフさんの真摯な思いを感じ2人の支援をしています。

Ⓐ 勉強することで私の心は豊かになり、そして世界が広がりました。健康でなくすく育ち、将来なりたい夢を叶え、すてきな女性に成長しますように。そしていつの日か会えますように。

Ⓑ 特定のチャイルドとつながりを持てることで、支援地域のことをとても身近に感じることができます。イエントを通じて様々な地域の現状を学べること、共通の意識を持った仲間ができることも魅力です。

Ⓐ スポンサーになり初めて写真を見たときは本当に幼くてまた硬い表情でした。今は打って変わりとてもハツラツとして写真に写っています。沢山本を読んでいつかは日本を訪れて欲しいなと願っています。そして私のことを思い出してくれたら嬉しいですね。

Ⓐ 募金という身近な手段で、世界の問題の解決に役立てることが嬉しいです。東京で働く私は、遠い国や、緊急災害地域に分け入ってくことで写真に写っています。沢山本を読んでいつかは日本を訪れて欲しいなと願っています。そして私のことを思ってください。

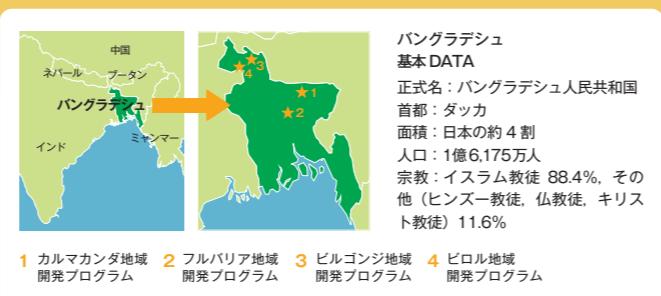
Ⓐ 目標を持って欲しいと思います。夢は必ず実現する！実現させる！という、強い意志を持って、頑張ってくれる様に応援したいです！私もチャイルドに負けない様に沢山の子ども達を支援出来る様に努力したいと思います。

Ⓐ 支援地ツアーに参加して、支援しているチャイルドと会えたこと、現地の活動の成果を目で見て知ることができます。チャイルド達が、より良い世界を創造してくれる事が一番の喜びです。手紙のやりとりだけではわからない支援地の厳しい現状などを学ぶことができました。



バングラデシュの支援と暮らし

ワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)がチャイルド・スポンサーシップを通して支援を届けている21カ国、45の地域の中から、今回はバングラデシュの4カ所の支援地域をご紹介します。



バングラデシュの課題と支援

貧困と子どもの栄養状態

課題

国土の大部分がデルタ地帯で、サイクロンや洪水などの被害を受けやすいバングラデシュ。人口の約3割が貧困層と言われています。貧困地域では、食料不足による子どもの栄養不良も課題となっています。

支援

縫製、手工芸品作りなどの小規模ビジネスや家畜飼育により、各家庭が農業以外の収入源を得られるよう支援しています。家畜から取れるミルクや卵は、子どもたちの栄養状態の改善にも役立ちます。また、母親たちを対象に、家庭菜園での野菜栽培や栄養ある食事の作り方を指導しています。これらの活動の結果、ビルル地域では栄養不良の5歳未満児の割合が2014年の43%から2016年には27.3%まで減少しました。



栄養改善プログラムに参加する親子（フルバリア地域）

教育

課題

大人たちの教育への理解が乏しいために、小学校入学後の出席率が低く、進級できない子どもたちが少なくありません。また、教師の教え方が適切でなく、生徒の授業内容の理解が不十分なことも課題です。

支援

教師を対象とした研修や、PTAや地域住民を対象とした教育の重要性に関する啓発活動を行っています。また、子どもたちが小学校入学前に学習の基礎的なスキルを身につけるための就学前教育や、勉強が遅れている子どもたちへの補習授業にも力を入れています。



就学前教育センターで学ぶ子どもたち（ビルゴンジ地域）

バングラデシュの人と暮らし

ベンガル語～4人の学生が命をかけて守った言葉～

「バングラデシュ」という国名は、ベンガル語を話す人々が住む地=ベンガルの国を意味します。1947年に、東側（現在のバングラデシュ）と西側（現在のパキスタン）に分かれた国土を持つ国「パキスタン」としてイギリスから独立。その後、西側の公用語であるウルドゥ語を強要されることを懸念し、東側の母語であるベンガル語を守ろうと4人の学生が立ち上りました。1952年2月21日、その4人が凶弾に倒れると独立の気運が高まり、1971年にパキスタンから独立してできた国が、現在のバングラデシュです。なお、この4人の学生が母語を守るために命を落とした2月21日は、その後ユネスコによって国際母語デーに制定されています。



ベンガル文字を学ぶ
バングラデシュの子ども

こんにちは（イスラム教徒）
আসলাম আল্লাহুক্র,

こんにちは（ヒンドゥ教徒、キリスト教徒）
নমস্কাৰ

元気ですか 私は元気です
ଶୁଣ୍ଟ ଦେଖନ ଆହଁ ? ଆଖି ଚାଲ ଆହଁ .



バングラデシュでは右手で食事をします。
左手は「不浄」とされているので食事の時は使いません



開発事業第2課 平本実
(2017年3月までバングラデシュに駐在)

米文化～世界で3番目の米の消費量～

バングラデシュは一人あたりの米の消費量が世界で3番目に多い国です。日本人が1日に食べる米はおにぎり3個分(151g)ですが、ベンガル人は1日におにぎり12個分の米(599g)を食べている計算になるという統計データがあります。ただ、貧しい家庭では野菜や魚などの副菜が十分ではないため、栄養のバランスが問題になっています。子どもたちが米だけでなく、成長に必要なたんぱく質や微量栄養素も摂取できるよう、WVでも様々な活動を行っています。

担当スタッフから

2015年から外国人襲撃事件が続いたバングラデシュ。WVをはじめ、援助団体は以前にもまして高い安全意識をもって仕事を続けています。バングラデシュは、頻発する自然災害に加え、隣国ミャンマーからの避難民の流入もあり、まだ支援ニーズが高い国です。貧困に苦しむ人々の割合を減らし、子どもたちが正しい知識とスキルを身に着けることによって、社会の中に平和を作り出すべく、これからも支援活動を続けていきます。

遺贈、遺産や相続財産
などのご寄付

末期がんの宣告を受け、亡くなる4日前に 妻が残したことばを受け継いで



遺贈のご寄付により、
子どもたちが将来への
希望と夢を持つことができます

WVJでは、遺贈、遺産・相続財産からのご寄付をお受けしています。大切な財産を託してくださった方のご遺志、愛する方の想いを受け継ぎご寄付くださるご家族のお気持ちを大切に、お考えにそった事業に活用させていただき、子どもたちの豊かな未来へとつなげています。

相続財産をご寄付くださった神奈川県在住の男性、I様の声をアンケートよりご紹介します

相続財産をご寄付くださった I 様

妻は、日頃から自分の収入を使って色々な福祉関係や経済的な支えを必要としている世界の子どもたちへの支援を陰ながら続けていました。

回復の見込みの無い末期癌の宣告を受け、亡くなる4日前に病床で「自分の預金や生命保険を、学校も満足に無いような世界の貧しい国に、子どもたちがひとりでも多く学校に行けるように使って欲しい」と私に言い残しました。

息子と娘にもその事を伝え、お母さん的心を応援し生かすために、自分たちもそれに加えて献金し、少しでもより充実した支援が出来るようにしようと、と家族で話し合って決めました。

十分な支援とは言えませんが、とにかく一人でも多くの子どもたちが、学校で学ぶ喜びを自分のものにできるように、と願ってやみません。

それによって子どもたちが、毎日、明るい希望をもって学校に、家庭に、地域社会に生きることができますように、と。

(アンケートより抜粋)

I様のご寄付は、大切な思いを受け継ぎ、現在、ルワンダとヨルダンでの教育支援事業のために活用させていただいている。

「遺贈・相続からの寄付」について、詳しくは同封のちらしをご参考ください。または詳しい紹介冊子をご用意しております。

資料のご請求・お問い合わせ TEL: 03-5334-5351 (平日 9:30-17:00)

My Dreams Come True
夢をかなえたチャイルド
カンボジア



困難を乗り越え、夢を叶えたカンボジアのチャイルド ～与えられる側から、与える側へ～

カンボジア南部の貧しい地域で、5人の兄弟と両親のもとで育ったシネット青年。子どもの頃にチャイルド・スポンサーシップの支援を受け、内戦で破壊された小学校の校舎を直したり、井戸を作ってくれるワールド・ビジョンのスタッフを間近で見て育ちました。

ために、夢をあきらめて大学を中退し、民間企業に就職せざるを得なくななりました。突然、絶望のどん底に落ちたような感覚を拭えず、自殺を図ろうとしましたが、友人に止められ、「父の治療費を払い、弟が勉強を続けるためには、自分が働かなければ」という想いで、生き続けることができたそうです。

「中学校を卒業したら、家族のために働く」と思っていたシネット青年の人生を変えたのも、ワールド・ビジョンのスタッフでした。「家族を助けたいなら、大学で勉強したほうがいい」。そう励まされたシネット青年は、次第に「大学で勉強して、WVスタッフになりたい!」という夢を持つようになり、その村で初めて高校へ進学し、さらに奨学金を得て王立ブンセンペン大学に進学しました。優秀な成績をさめ韓国への留学も決まつた、そんな矢先、シネット青年が心から愛していた父親が、事故で大怪我を負います。家族の暮らしを支える

その後、ワールド・ビジョン・カンボジアがスタッフを募集していることを知ったシネット青年は思い切って応募し、2011年、ついに子どもの頃からの憧れだった「ワールド・ビジョンのスタッフ」になりました。現在は、プログラム・マネージャーとして、洪水で学校が年に4カ月しか開かれないこともあるボレイ・チュルサール地域にて、補習授業を行う子どもクラブを17カ所立ち上げたり、足りない教材を提供するなど、子どもたちの教育環境を整備することに注力しています。



支援地域の子どもたちと遊ぶシネットスタッフ

WVカフェに参加してみませんか？WVスタッフが、あなたの街を訪れます！

「支援地域の子どもたちの様子がわかつて嬉しい！」と好評のイベント「ワールド・ビジョン・カフェ（WV カフェ）」を全国各地で開催しています（参考費用無料）。支援地域の子どもたちの様子や活動状況を写真や動画を交えて報告します。参加ご希望の方は、事前にホームページ、Eメール、お電話にてお申込みください。（締め切りは開催日の3日前です）



2017年8月 WV カフェ in 神奈川の様子

京都
日時：2018年4月14日(土)14:00～16:30
会場：京都教育文化センター 202号室
京都市左京区聖護院川原町4-13

兵庫
日時：2018年4月15日(日)14:00～16:30
会場：神戸国際会館 8階 802・803号室
神戸市中央区御幸通8丁目1番6号

愛知
日時：2018年5月19日(土)14:00～16:30
会場：ウィルあいち 愛知県女性総合センター 2階
特別会議室
名古屋市東区上野杉町1番地

静岡
日時：2018年5月20日(日)14:00～16:30
会場：浜松市福祉交流センター2階 21会議室
浜松市中区成子町140-8

北海道
日時：2018年6月2日(土)14:00～16:30
会場：北海道立道民活動センター
かどる2.7 10階 1030会議室
札幌市中央区北2条西7丁目

支援地訪問ツアーのご案内

2018年8月に「地球あちこち～ウガンダを知る旅」を予定しています。ナラウェヨ・キシータ地域開発プログラム（ADP）は、プロジェクト終了前にツアーで訪問する最後の機会です。チャイルドに会いに一緒に行きませんか？

ウガンダ

訪問先：ナラウェヨ・キシータ ADP
キルヤングア ADP
期間（予定）：2018年8月

旅行期間、募集人数、参加費、旅行会社の情報は準備中のため、決まり次第、ホームページ等でお知らせいたします。
※訪問国の治安状況や感染症の影響等により、ツアーが中止または変更となる場合があります
※定員に達しましたら募集を締め切らせていただきます

WV カフェ・ツアーについてのお申込み・お問い合わせは

◎コンタクトセンター（支援者窓口）

TEL : 03-5334-5351 (平日 9:30 - 17:00) Eメール : dservice@worldvision.or.jp

メールアドレスをご登録ください！

ご支援いただいたりチャイルドや支援地域から動画が届いています！メールアドレスをご登録いただくと、動画など支援地域の最新情報を送りることができますので、ご登録がまだの方はぜひ事務局までご連絡ください。



登録方法

Eメールの件名に「メールアドレス登録」と明記し、dservice@worldvision.or.jpへ

- ① パートナー番号（またはご登録のお電話番号）
 - ② お名前
 - ③ 登録希望のメールアドレス
- をご連絡ください。

二 重要なお知らせ 二

チャイルドへのプレゼント規定変更のお知らせ

2018年1月1日から、日本郵便株式会社による国際郵便の取扱内容に変更がありました。この変更に伴い、チャイルドへの手紙に同封いただけるプレゼントは書状のみになりました。詳しくは別紙ご案内をご一読ください。大切なご支援金を有効に活用するために、皆さまのご理解とご協力をお願いします。

WVJ 30周年フィナーレイベント「つながろう、子どもたちのために」



日時：2018年9月17日(祝・月) 時間は未定。決まり次第、HP等でご案内します。

会場：淀橋教会 (〒169-0073 東京都新宿区百人町1-17-8)

内容：ご支援くださっている皆さんに支援の成果と感謝をお伝えしたい！その一心です。スペシャル・ゲストの登壇も予定していますので、ぜひ今からご予定ください！

申込み：詳細が決まり次第、HP等でご案内します。